

推薦の言葉

本翻訳書の原書の著者の一人である Giles Peek 先生が、呼吸 ECMO に関して世界で初めて ECMO の優位性を示した RCT, いわゆる CESAR Trial を発表して 14 年ほどの月日が経ちます。その後多少の limitation が議論されてはいますが明らかに世界の ECMO 診療のターニングポイントとなったと言えます。それから 12 年後、同様に本翻訳書の原書の著者の一人である Alain Combes 先生が EOLIA trial の結果を発表されました。crossover という言葉や、negative-positive などの言葉を用いながらも、われわれ ECMO 診療に軸足を置いている集中治療医としては EOLIA trial の結果を好意的に解釈しております。

このような世界の潮流のなかで、わが国でも ECMO の成績は進歩しています。特に呼吸 ECMO に関しては 2009 年の新型インフルエンザのパンデミック時にわが国の ECMO 患者の生存率が 37 % と海外と比較してきわめて不良であったことを竹田晋浩先生が報告し (S Takeda ら, J Aneth 2011), 成績改善目的で日本呼吸療法医学会の ECMO プロジェクトを立ち上げたことが転機でした。その後、2016 年の ECMO 患者の生存退院率は 50 % まで改善している (ECMO プロジェクト委員会 青景ら, 人工呼吸 2017) ことを青景聰之先生が報告されています。つまり、ECMO プロジェクトの活動により、日本の ECMO 治療は挑戦の範疇から標準的治療の範疇に急速に進化したと言えます。それを現在の大下慎一郎先生が委員長としてさらなる発展を目指して奮闘しております。

このような世界基準の ECMO 管理本の翻訳をわが国の呼吸 ECMO のリーダーの一人である市場晋吾先生、清水敬樹先生が決断し、多数の若手の先生方とともに訳出して完成に至ったきわめて本質的かつ、基本的な内容が詰まった至極の一冊が本書であります。ECMO 診療に関わるあらゆる職種の皆様に手にとっていただけることを期待しています。

2020 年 2 月

日本呼吸療法医学会 理事長
大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座
麻酔・集中治療医学教室 教授
藤野裕士